

# 会報

No. 12

1982年5月  
日本分子生物学会  
事務局発行

## ◆日本分子生物学会昭和56年度 評議委員・幹事会議事録

日時：昭和56年11月25日 午後6時30分～9時

場所：金沢市厚生年金会館 会議室

出席者：渡辺 格（会長），石浜 明，今本文男，大沢省三，岡田節人，志村令郎，鈴木義昭，関口睦夫，高浪 満，広田幸敬，堀内忠郎，松原謙一，三浦謹一郎，由良 隆，内田久雄（庶務），岡田吉美（会計監査），小関治男（編集），杉村 隆（会計監査），溝渕 潔（会計），村松正実（集会），吉川 寛（集会）

### 〔I〕報告事項

- 1) 渡辺会長より第4回日本分子生物学会年会在金沢大学を会場として開催されることとなったが、準備に当られた吉川 寛氏はじめ関係各位に対し感謝するとの挨拶があった。
- 2) 内田幹事より、11月20日現在における学会員数は938名であり、本年度は208名の新会員を迎えたとの報告があった。
- 3) 溝渕幹事より、昭和55年度 会計収支決算（会報10号に記載）の報告、昭和56年度 会計収支中間報告（第1表）、及び11月20日現在における学会費納入状況（655名納入，69.8%）の説明がなされた。
- 4) 内田幹事から山田財団研究助成金に関する推薦経過について報告があった。応募のあったものについて選考委員会で審査した結果、本年度は江角浩安会員を推薦することとした。

### 〔II〕協議事項

#### 1) 昭和57年度 予算案について

会計幹事より、昭和56年度 決算において繰越金が生じた場合、その一部を運営資金に加えること、並びに昨年度から懸案となっている賛助会員の募集実施を前提として予算案が提示され、協議した結果、第2表の予算案が了承され、総会に計ることとした。

2) 学会費未納者に関する協議

3年間以上学会費を滞納している者には、事前にそのことを通知し、それでも滞納する場合は、自動的に退会したとみなすことが了承された。

3) 昭和57年度 第5回年会について

第5回年会を東京にて開催し、年会世話係を村松正実会員に依頼することを了承し、総会に報告することとした。

4) 吉川幹事から年会における報道関係者との対応を学会として如何に対処すべきかについて問題提起がなされた。この事について協議した結果、報道関係者との対応は年会係及び座長の責任において、その都度対処することが現実的であるとの結論に達した。

5) 分子生物学の将来計画について

本学会として、分子生物学の将来計画を積極的に検討すべきかどうかについて自由討議を行なった。その結果、必要ならば小委員会を設置して検討すべきとの意見も提出されたが、結論を得るにはいたらなかった。

6) 特許問題について

松原委員より組換え DNA 技術の進展に伴い 特許問題が生じているが、このようなことに対し、本学会としてどう対処すべきかについて問題提起がなされた。

(第1表)

昭和56年度 会計収支中間報告(11月20日現在)

[1] 収 入	(円)
1. 学会費(含入会費)	1,924,000
2. 年会要旨売却	5,960
3. 預金利息	11,794
4. 前年度からの繰越し	1,422,826
計	3,364,580

〔Ⅱ〕 支 出

1. 事業費

会報発行(2回)	104,000	( 146,000)
第4回年会補助	500,000	( 0)
第4回年会プログラム	50,000	( 0)
講演会謝金	120,000	(-120,000)

2. 評議委員会

0 ( 50,000)

3. 一般事務費

印刷費	51,790	( 48,210)
郵便費	303,310	( 296,690)
事務用品費	4,660	( 45,340)
一般事務謝金	282,000	( 318,000)

4. その他

14,710 ( -14,710)

5. 予備費

0 ( 600,000)

計 1,430,470 (1,369,530)

( )は、予算からの残額を示す。

(第2表)

昭和57年度 予 算 (案)

〔Ⅰ〕 収入の部

1. 学会費	1,900	千円
2. 賛助会費	300	
3. 前年度よりの繰越	800	
計	3,000	

〔Ⅱ〕 支出の部

1. 事業費	(950)	千円
会報発行	250	
第5回年会補助	500	
年会プログラム	50	
講演会	150	
2. 評議委員会	(200)	
会合費	50	
役員選挙費	150	
3. 一般事務費	(1,350)	
印刷費	100	
郵便費	600	
一般事務謝金	600	
一般事務用品	50	
4. 予備費	500	
計	3,000	

#### ◆ 第 4 回日本分子生物学会年会における総会議事録

日 時 1981 年 11 月 26 日 午前 11 時～12 時

I. 議長として松影昭夫（愛知県がんセンター），武藤 明（金沢大・医）が選出された。議長は委任状 101 通を含め，総会が成立することを確認した。

#### II. 経過報告

渡辺会長あいさつの後，内田庶務幹事より前回総会開催以降の本会事業の経過について報告があった。

#### III. 議 事

溝渕会計幹事より前年度会計収支決算報告があり，これを承認した。本年度事業計画および予算について説明があり，これを承認した。

#### IV. そ の 他

次期年会は昭和 57 年 12 月東京において開催し，年会世話係を村松正実氏（癌研）に依頼した。

#### ◆ 昭和 57 年度 第 1 回評議員・幹事会議事録

日 時 : 昭和 57 年 4 月 12 日 (月) 午後 1 時 30 分～7 時

場 所 : 京都市・京都大学ウイルス研究所

出席者 : 会 長 渡 辺 格

評議員 広田幸敬，堀内忠郎，今本文男，石浜 明，松原謙一，  
三浦謹一郎，岡田節人，大沢省三，関口睦夫，志村令郎，  
由良 隆

幹 事 内田久雄（庶務），小関治男（編集），溝渕 潔（会計），  
吉川 寛（集会），村松正実（集会）

欠席者 : 評議員 本庶 佑，上代淑人，鈴木義昭，高浪 満

#### (1) 報 告

- 1) 庶務報告：庶務幹事より 3 月 19 日現在における会員数は 973 名であることが報告された。
- 2) 会計報告：会計幹事より昭和 56 年度 会計収支決算の概要が報告された。なお詳細は会計監査終了後会報に記載される。
- 3) 選考委員会報告：庶務幹事より下記の授賞に関する応募状況ならびに選考結果が報告された。

- i) 山田科学振興財団研究援助：本会推薦江角浩安氏（国立がんセンター研究所，研究題目「無アルブミン血症ラットにおけるアルブミン欠損の分子生物学的機構解明とメッセンジャー RNA スプライシングの機構に関する研究」が援助をうけることとなった。
- ii) BMY分子生物学奨励金：応募者5名のなかから片岡 徹氏（阪大医，研究題目「免疫グロブリン遺伝子の構造変換と発現の機構」）に決定した。
- iii) 藤原賞：第23回 藤原賞受賞候補者として富沢純一氏を推薦した。

## (II) 議 事

1) 共催行事：下記集会を共催することを承認した。

- i) 第6回国際ウイルス学会議 昭和59年9月，仙台市，会長石田名香雄
- ii) tRNA国際ワークショップ（昭和58年3月，組織委員会委員長 西村 暹）
- iii) 核酸化学国際シンポジウム（昭和57年11月，世話人 池原森男）
- iv) 第7回真核細胞 DNA 複製シンポジウム（昭和57年8月，世話人 花岡文雄）については会報に記載することを承認した。

なお各種講習会のうち，企業主催で営利を目的としたものは原則として共催しないことを決めた。

2) 年会：第5回および第6回年会につきぎの事項を承認した。

- i) 第5回年会：昭和57年12月8日（水）～10日（金）。東京都，日本都市センターおよび全共連ビル。参加費4,000円（一般）または2,500円（学生）。講演申込締切り9月10日。招待講演（予定）P. Chambon（ストラスブール大，フランス）およびK. Illmensee（ジュネーブ大，スイス）。年会委員長 村松正実（集会幹事）
  - ii) 第6回年会：昭和58年8月22日（月）～25日（木）。札幌市，北海道大学。招待講演（予定）M. Green 教授（セントルイス大，米），年会委員長 藤永 蕙
- 3) 賛助会員募集：学会活動を活発にするため，賛助会員の募集に取り組むこととし，具体的方策については会長と庶務幹事に一任した。

4) 学会活動について

会長より①文部省（および学術審議会），科学技術庁（および科学技術会議）その他，各省庁の「組換え DNA」研究推進をはじめとする分子

生物学関連領域の科学政策，②科学研究費補助金総合研究(B)「生命科学推進のための調査研究」(代表者，渡辺 格)，総合研究(B)「生物学諸分野の連絡システムの検討」(代表者，江上信雄)および特定研究(1)「学術研究動向の調査研究」生物学班(代表者，渡辺 格)各研究班の研究活動，③AMBOの活動状況，が報告された。

これらの情報を参考にして，今後の学会活動のあり方について，総合的に検討されたが，具体的活動方針については継続して討議することとした。

◆財団法人山田科学振興財団より下記の申請要領等につき改訂のお知らせが来ております。

援 助 名	募 集 開 始	締 切 日
来 日 (58年4月～59年3月分)	57年4月1日	57年11月30日
長 期 間 派 遣 (58年4月～59年3月分)	57年4月1日	57年11月30日
短 期 間 派 遣	出発月の4カ月前の15日が締切日 (例：57年10月出発の場合57年6月15日が締切日)	
学 術 交 流 集 会 (58年4月～59年3月分)	57年4月1日	57年9月30日
研 究 援 助	57年4月1日	57年10月25日

◆核酸化学国際シンポジウム 予告

(第10回 核酸化学シンポジウム)

主 催 核酸化学シンポジウム組織委員会・日本学術振興会

共 催 日本薬学会，日本化学会，日本農芸化学会，高分子学会，日本生化学会，日本生物物理学会，有機合成化学協会，日本分子生物学会

日 時 11月24日(水)～11月26日(金)

会 場 京都ホテル(京都市中京区河原町御池 TEL 075-211-5111)

討 論 主 題 核酸とその関連物質の有機化学，物理化学および生化学

今回は第10回にあたり，国際シンポジウムとして下記の方々の招待講演を予定しております。

招待講演者：

M.H. Caruthers (米・コロラド大)      E. De Clercq (ベルギー・ルバンカソリック大)  
W. Guschlbauer (仏・サクレー原子力研)      A. Holy (チェコスロバキア・科学アカデミー)  
J. L. Imbach (仏・モンペリエ大)      H. G. Khorana (米・M.I.T.)  
H. Kössel (独・フライブルグ大)      H. Köster (独・ハンブルグ大)  
C. B. Reese (英・ロンドン大)      M. J. Robins (加・アルバータ大)  
J. H. van Boom (蘭・ライデン大)      R. T. Walker (英・バーミンガム大)  
M. Wiewiorowski (ポーランド・科学アカデミー)

今回のシンポジウムの発表は、口頭またはポスターにより、英語で行ないます(口頭またはポスター発表の割振りについては委員会に御一任下さい)。

発表申込締切り    6月19日(土) 必着

発表要旨締切り    7月24日(土) 必着

1) 題目, 研究場所, 氏名(発表者に○印), 2) 申込者連絡先(所属, 所在地, 電話番号), 3) 200字程度の要旨, を添えて下さい。申込者には, 折返し, 表要旨原稿用紙をお送りしますので, 英文要旨(4ページ以内)を作成のうえ, 締切りを厳守してお送り下さい。この要旨は, Nucleic Acids Research の Special Publication として発表されます。参加費(Abstractを含む) 18,000円(10月15日までの申込み), 20,000円(10月16日以降の申込み), 10,000円(学生, 10月15日までの申込み)

Nucleic Acids Research, Special Publication (Abstract)のみ御入用の方は, 一冊につき4,500円(送料込み)

懇親会 11月25日(木)夜, 会費10,000円(なるべく10月15日までにお申し込み下さい)。

参加者でAbstract 郵送希望の方は, 郵送料として500円を加えて御送金下さい。

申込先    〒565 吹田市山田丘1-6    大阪大学薬学部 池原森男  
(電話(06) 877-5111 内線6121~4)

◆第7回真核細胞DNAシンポジウム

— 遺伝子構造とタンパク認識 —

上記のシンポジウムが8月28日(土)～30日(月)に湯河原厚生年金会館(静岡県熱海市泉107)で開かれます。

今回は、下記4名による講義に加え、真核細胞およびウイルスの遺伝子構造と、その酵素、タンパクによる認識に関する演題を公募します。希望者は、(1)演題、(2)所属、(3)氏名、(4)連絡先(研究機関名、所在地、電話番号)を明記し、講演概要(200字程度)を添えて申し込んで下さい。締切りは7月17日(土)です。参加料は無料です。参加希望者は7月17日までに申し込み下さい。

講義：池永満生(阪大) ヒト遺伝病細胞におけるDNA修復・複製の異常

石浜 明(京大) 逆転写酵素の構造・機能と形成機構

大島靖美(筑波大) snRNAとその遺伝子

水沢 博(NIH) Repair and mutagenesis mediated by BP-DE modified DNA

世話人：小池克郎(癌研)、吉田松年(愛知県コロニー)、松影昭夫(愛知県がんセンター)、花岡文雄(東大)、瀬野悍二(埼玉がんセンター)、平賀壮太(京大)

[申込・連絡先]

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部生理化学教室 花岡文雄

Tel. (03) 812-2111 内線 4755

◆昭和57年度 学会費納入についてのお願い

1. 昭和57年度分の学会費を同封の郵便振替用紙で納入して下さい。なお、正会員で学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書を本学会事務局に提出して下さい。

記

正会員学会費 2,500円

(但し、在学証明書を提出したときは 2,000円)

学会費納入のための郵便振替口座

東京 2-13518

日本分子生物学会会計事務局

なお、すでに学会費を納入されている場合は御容赦下さい。本学会費の納入に際しては年会参加費と混同しない様お願いします。

2. 昨年度から年会講演申込みには、学会費納入控(または領収書)を付して年会係に申し込むこととなりました。講演を希望される方は、学会費納入控(または領収書)を保管しておいて下さい。また、学会費納入控を保管されていない方は往復葉書で日本分子生物学会事務局に問い合わせ下されば、折り返し納入証明を通知します。

(会計幹事)

◆日本分子生物学会入会申込みの手順

日本分子生物学会に入会を希望なさる方は、下記の手順により、お申し込み下さい。

記

1. 添付の入会申込書又は同形の用紙に必要な事項を記入の上、下記事務局へ送付して下さい。

〒108 東京都港区白金台4-6-1

東京大学医科学研究所生物物理化学研究部内

「日本分子生物学会」事務局

2. 同時に、入会金1,000円および初年度分会費 正会員は2,500円、学生会員は2,000円を郵便振替により会計幹事宛振込んで下さい。尚、整理の都合上、できるだけ二票式の振替用紙を使用して下さい。

加入番号 東京2-13518

加入者名 日本分子生物学会会計事務局

◆第5回日本分子生物学会年会のお知らせ

第5回年会は、1982年12月8日(水)～10日(金)の3日間、東京・都市センターおよび全共連ビルで行なわれます。スケジュールについては、後日(10月下旬予定)お送りするプログラムでお知らせします。

特別講演は、P. Chambon教授(ストラスブール大学)およびK. Illmensee教授(ジュネーブ大学)(交渉中)を予定しています。

### 講演の申込み

1. 一般講演の演者は、本年度会費既納の本学会会員に限り、1人1題とします。なお、他の講演の連名者となることは差しかえありません。(会費納入あるいは入会の手続きについては、本会報“昭和57年度会費納入について”のお願い”を御覧下さい)
2. 一般講演の申込みは、同封の用紙に必要事項を記入し、書留便で年会係までお送り下さい。

締切日 1982年9月10日(必着)

送り先 〒170 東京都豊島区上池袋1-37-1

癌研究所生化学部

第5回日本分子生物学会年会係

3. 演者の本年度会費納入を確認するために、申込書の所定の欄に、会費払込みの際、郵便局が発行する領収書又はそのコピーを貼付して下さい。

領収書を紛失された方は同欄にその旨御記入下さい。

会費未納の場合は、申込みを受理致しませんので御注意下さい。

4. 演題受領書は、申込用紙到着後、演者の本年度会費納入を確認の上、返送致します。発表の日時についての通知は、会員の方に発送されるプログラムをもって代えさせていただきますので御承知下さい。
5. 一般講演の時間は、15分(講演12分、討論3分)の予定です。スライドは35%判10枚以内とします。会場は4会場の予定です。なお、応募演題数によっては、講演時間を変更することがありますので御了承下さい。

### 参加申込み及び参加費

1. 年会参加費は4,000円(但し、学生2,500円)です。これには講演要旨集の代金が含まれています。懇親会費は2,500円です。なお、要旨集のみ希望の方には、会員1,500円(但し、会員一人につき一部のみ)、非会員3,000円でお送りします。
2. 年会参加費、懇親会費、要旨集代金の払込みには、同封の振替用紙を御利用下さい。

同封の用紙を使用されない場合には、必ず通信欄に、第5回日本分子生物学会と記入の上、送金のうちわけ、住所・氏名を御記入の上、下記の郵便振

替口座へ御送金下さい。

口座番号 東京6-35379

加入者名 第5回日本分子生物学会年会

(代表 村松正実)

整理の都合上、申込者1人につき1枚の振替用紙を御使用下さい。

3. 10月30日までに参加費を払い込まれた方には、年会前に講演要旨集を郵送致します。11月1日以降に払い込まれた場合には、年会会場にて要旨集をお渡しすることになりますので御注意下さい。
4. 参加費払込みの領収書は、原則としてお送り致しませんので御了承下さい。念のため、郵便局の領収書を保管しておいて下さい。
5. 当日申し込まれる方は、会場受付で参加費をお払い下さい。

#### そ の 他

1. 現在、東京大学溝渕先生より「蟲の会」開催の要望がありますが、その他、小集会等開催の希望がありましたら御連絡下さい。
2. 第5回年会についての御意見、お問い合わせは下記へお願い致します。

〒170 東京都豊島区上池袋1-37-1

癌研究所生化学部

村松正実または藤井義明

電話(03)918-0111 内線2646～2649

以 上

#### ◆ 蟲 の 会

今年も昨年を引き続いて、分子生物学会年会の折に分子生物学会「蟲の会」をもちたいと考えています。蟲に興味をおもちの方はふるって御参加下さい。資格は問いません。一夜を大いに自慢話に花を咲かせたいと思います。

会場の関係で御出席の人数を知りたいと思いますので御希望の方は9月30日迄に下記宛に御連絡下さい。

尚、楽しい「蟲の会」のため、御希望、アイデアをおもちの方は、是非お知らせ下さい。

今年の蟲の会世話人

溝 淵 潔

〒 113 東京都文京区本郷 7 丁目 3-1

東京大学理学部生物化学教室

TEL (03) 812-2111 (代)

◆シンポジウム「分子生物学の現状と将来」の開催

日 時 昭和 57 年 7 月 20 日 (火) 午後 1 ~ 5 時

場 所 国際文化会館 講堂

東京都港区六本木 5-11-16

Tel. (03) 470-4611

講 演 : 遺伝子をめぐる研究

小 関 治 男 (京大・理)

DNA 塩基配列のデータ・ベース

大 井 龍 夫 (京大・化研)

総合討論 : 今後の分子生物学における教育と研究

司会 内 田 久 雄 (東大・医科研)

新しい試みとして上記シンポジウムを開催いたします。多数のご参加と活潑  
なご発言をお願い致します。

# 日本分子生物学会入会申込書

氏 名

(ローマ字)

19 年 月 日生

専門分野

学位

勤務先・職

同所在地

連絡先

貴会に 正\* 学生\* 会員として入会を希望いたします。

年 月 日

署名



日本分子生物学会会長 殿

\* 不要の文字を消す。学生会員は在学証明書を添付のこと。



記入に際して申込書裏面の注意をお読み下さい。

プログラム編集用カード

演題番号※ \_\_\_\_\_

受付番号※ \_\_\_\_\_

演 題 \_\_\_\_\_

氏名所属 \_\_\_\_\_

人名索引編集用カード

受付番号※ \_\_\_\_\_

	氏 名		演 題 番 号※
	漢 字	ひ ら が な	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

## 第5回日本分子生物学会年会一般講演申込書

講演 申 込 み	演 題		演題番号※	受付番号※	
	氏名(所属)				
	連絡者				
	住 所				
	電話番号	市外局番	局番	番号	内線

備 考 講演者の前に○印を付して下さい。プログラム原稿となりますので連名の方すべて記入して下さい。講演申込欄の所属は略号を用いて下さい。

ここに、演者の本年度会費払込みの領収書を貼付して下さい。

## 受 取 書

受付番号※ \_\_\_\_\_

受付年月日※ 1982年 月 日

演 題 \_\_\_\_\_

上記演題は発表要旨とともに受取りました。

発表の日時は後日お送りするプログラムによって御承知下さい。

東京都豊島区上池袋 1-37-1  
癌研究所生化学部  
第5回日本分子生物学会年会係

## 記入上の注意

1. この用紙は、切り離さずに、郵送して下さい。
2. 受付番号、演題番号等※印の項には記入不要です。
3. 要旨はオフセット印刷にしますので、まず目いっぱい黒インクで書いて下さい。「演題」「氏名所属」という青字の上に重ねて書き始めて下さい。演者の前には、○印を付して下さい。
4. プログラム編集用カードにしたがって、プログラムを編集印刷します。「演題」「氏名所属」を要旨と全く同じに記入して下さい。
5. 人名索引編集用カードには、演者及び連名の方を、1枠に1人ずつ、すべて記入して下さい。
6. 講演申込書には、「演題」「氏名所属」と共に、連絡者1名の氏名・住所・電話番号を記入して下さい。
7. 演者の本年度会費払込領収書（郵便局発行のもの）またはそのコピーを所定の欄に貼付して下さい。既に、払い込まれている場合には、その欄に「既納」と記入して下さい。
8. 受領書には、「演題」と共に、裏面に宛名を記入し、40円切手を貼って下さい。

第5回日本分子生物学会年会係

癌研究所生化学部

東京都豊島区上池袋1-37-1

〒1170

40円切手を  
はって下さい。

郵便はがき

□	□	□	□	□
				□

殿